

仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）中間案に関する意見公募（パブリックコメント）の実施結果

1 意見募集期間

平成28年10月29日（土）～平成28年11月28日（月）

2 意見提出者数及び意見の件数

- (1) 意見提出者数 7人
(2) 意見の件数 16件

3 意見の概要及び教育委員会の考え方

■第3章 子ども読書活動推進計画（第三次）の目的と基本的方針

| No. | ページ | 意見分類 | 意見（要約） | 教育委員会の考え方（案） |
|-----|-----|--------|---|---------------------|
| 1 | 13 | 目的について | 東京オリンピックにも目を向け、国際的な視野を入れた計画にすると一層子ども達の読書に対する意欲・関心が増すと考える。 | ご意見をふまえ、関連部分を修正します。 |

■第4章 子ども読書活動の推進のための取組 家庭

| No. | ページ | 意見分類 | 意見（要約） | 教育委員会の考え方（案） |
|-----|-------|---------------------|---|--|
| 2 | 15-16 | 子どもが読書に親しむ機会の提供について | 子どもが読書に親しむ機会を持つことは幼児、特に赤ちゃんの時から大切だと考える。子ども達に読書の習慣をつけるということは、「お母さん」が先ず絵本を読んで、この子にも読んであげようという気持ちになることが大切。パンフレットの「あかちゃんと楽しむ絵本」ではなく、赤ちゃんの誕生祝いに絵本を贈るブックスタートを実施してほしい。 | ご意見のとおり、子どもが読書に親しむ機会を持つためには、保護者の方のご理解が大変重要であると考えております。今後は、「家読（うちどく）」の推進や乳幼児の保護者向けブックリスト「あかちゃんと楽しむはじめての絵本」の内容の充実と配布時の読み聞かせ会の実施などを進めるとともに、乳幼児に絵本との出会いを届ける機会について検討してまいりたいと考えています。 |
| 3 | 15-16 | 子どもが読書に親しむ機会の提供について | 乳幼児期から保護者が読み聞かせをしたり、図書館に連れて行くなど、子どもが本と関わる機会をたくさん持たせることが大切。本に触れることで読書の面白さや楽しさを知り、読書に興味関心を持つことは、子どもの成長の上で、とても大事である。 | ご意見をふまえて、保護者向けブックリストの配布や読み聞かせ会の開催、読書活動の推進のための情報提供など、子どもが読書に親しむ機会の提供に関する取組を今後も進めていきたいと考えています。 |
| 4 | 15-16 | 子どもが読書に親しむ機会の提供について | デジタル化が進み、本を読む機会もだいぶ減っているようだが、親子がきちんと向き合い、読書を通じて幼少期から親子で同じ楽しみを共有していくことは、子どもの成長には欠かせないものであると考える。 | 家族と一緒に読書をし、同じ話題を共有する「家読（うちどく）」を新たに計画に位置付けたところであり、家庭における取組を今後積極的に推進していきたいと考えています。 |

■第4章 子ども読書活動の推進のための取組 地域

| No. | ページ | 意見分類 | 意見（要約） | 教育委員会の考え方（案） |
|-----|-------|--------------------|---|---|
| 5 | 18-20 | 子育て支援施設 の取組について | 市民センターや保育所など読書に親しむ機会を提供したり、保育所や児童館図書室で貸し出し事業をより充実させたりすることは大変意義のあることである。 | ご意見をふまえて、児童館やのびすくなどの子育て支援施設における取組を今後も進めていきたいと考えています。 |
| 6 | 19 | 読書環境の整備・ 充実について | 元気でエネルギー豊富な高齢者が多いため、そのような高齢書を「読み聞かせ」ボランティアとして活用していったらどうか。 | 現在も多くの高齢者の方に読み聞かせボランティアとして活躍いただいております。今後もボランティアの養成や活動場所の確保などの取組を通じ、多くの方が読み聞かせボランティアとして参加していただける環境づくりに努めてまいりたいと考えています。 |
| 7 | 19 | 読書環境の整備・ 充実について | たくさんのテナントが入っているオフィスビルの中に、市民図書館の出先の図書室などが設置されていれば、子育て中の従業員が児童書などを気軽に借りていく環境となり便利だと考える。 | 市民図書館では自宅や地域施設で子どもたちや地域住民に本を貸し出す文庫活動を支援しています。ご意見にもありました本を借りる環境の整備につきましては、今後とも検討してまいりたいと考えています。 |

■第4章 子ども読書活動の推進のための取組 学校

| No. | ページ | 意見分類 | 意見（要約） | 教育委員会の考え方（案） |
|-----|-------|-------------------------|--|---|
| 8 | 22-27 | 読書環境の整備・ 充実について | 読書は「普通のこと」「日常」である。イベントではなく、子どもの日常の中に溶け込ませるためには「読む気にさせるちょっとしたきっかけ」づくりが大切である。それに一番効果があるのが「担任の先生」の取組であると考え。授業中に本をちょっと紹介する、絵本や読みやすい本などを教室に置くなどの取組を気軽にしていけばいいのではないかと。 また、担任の先生が読書に対する理解を深めることで、読書推進につながると思う。 | ご意見のとおり、読書活動を推進していくためには、教職員の読書指導に関する意識と能力の向上が大変重要であると考えており、今後も研修機会の充実等の取組を進めてまいりたいと考えています。 また、図書の紹介に関する取組について関連部分を修正します。 |
| 9 | 22-27 | 読書環境の整備・ 充実について | 担任自身が本の効果を理解し、隙間時間に子どもが読書をするきっかけとなるように、教室内に子どもたちが、いつも「読みたい本」「授業とリンクする本」を設置するのがいいのではないかと。 担任による本の設置が難しい場合は、司書教諭の1週間の持ち時間を5時間程度軽減することで、読書環境の整備に時間をあててもらえるようにしてはどうだろうか。 | ご意見をふまえ、教職員の意識と能力の向上を図るとともに、司書教諭等の活動の推進を図りながら、読書環境の整備に努めてまいります。 また、図書の紹介に関する取組について関連部分を修正します。 |
| 10 | 23 | 読書に親しむ機 会の提供につい て | 学校での自由読書の時間を多くするゆとりあるカリキュラムを切望する。 | 図書室を利用できる時間を授業時間内に設定するなどしてまいりましたが、今後も授業時間に自由読書ができるように努めてまいります。 |

| No. | ページ | 意見分類 | 意見（要約） | 教育委員会の考え方（案） |
|-----|-----|-----------------|--|--|
| 11 | 23 | 読書に親しむ機会の提供について | <p>子どもの読書推進は、小中学校での取り組みが一番重要だと考える。保護者が多忙、または、読書に無関心な家庭の子どもに、毎日通学する学校以外で、読書を促す活動に参加してもらうのは困難であると考え。</p> <p>読み聞かせやブックトークなど、読書活動としてイメージできるものは多くの学校で実践されているが、その他の新しい試みをしている話は、なかなか聞かない。市民やボランティアに、新しい企画を募集してみるのはいかがか。</p> | <p>小中学校のうちに読書をする習慣や、読書に対する興味関心を高めることは、大切なことと考えます。今後は、家庭の啓発を継続するとともに、学校で取り組んでいける企画を広く求めることも視野に入れながら、計画に基づき、学校における多様な読書活動の推進に取り組んでまいります。</p> |
| 12 | 24 | 読書環境の整備・充実について | <p>学校図書館、市民図書館の蔵書を充実させ、集会所やコミセンなど子どもの手の届く所に本を置いてほしい。</p> | <p>ご意見をふまえ、学校図書館や市民図書館の蔵書の充実に関しても努めてまいります。</p> |
| 13 | 25 | 読書環境の整備・充実について | <p>学校図書館の地域開放はやめてほしい。保護者だけでなく、地域の不特定多数の方々から自由に入出入り状況では、子どもの安全の確保ができるのか不安。</p> | <p>学校図書室開放事業は、子どもの教育機会の拡充や地域の生涯学習の場としての活用を図り、「地域とともに歩む学校」づくりを進めていくうえで、重要な施策となっております。</p> <p>より多くの地域の方々から当事業に関わっていただくことにより、子どもたちの安全確保を含めた円滑で効果的な事業運営を進めてまいりたいと考えています。</p> |
| 14 | 26 | 読書環境の整備・充実について | <p>学校においてブックトークを外部の団体に行ってもらう時、自校の学校図書館にある本で行ってもらうことを提案したい。あるいはブックトークとまでは行かなくても「本の紹介」くらいでよいのではないかと思う。</p> <p>外部の方でなくても、図書館担当者や司書教諭の授業の持ち時間数を減らすことで、本の紹介を日常的に行うことが可能になると思う。ブックトークに45分かけるより、1回15分の本の紹介を日常的に行う方が効果が高いと考えている。</p> | <p>ブックトークを行う際に、自校の図書館にある本で行うことや、短い時間で回数を重ねていくことは大切なことと考えます。今後、研修の際などに学校へ伝えてまいりたいと思います。</p> |
| 15 | 26 | 読書環境の整備・充実について | <p>子どもと本、教室と学校図書館が近くなるための指導チームを3年ぐらい特設し、読書活動が日常化されるように各学校を訪問し(年に数回・顔見知りになれる程度に)図書館担当や図書事務員さんと協力して活動できると、年間読書冊数はあつという間にアップすると考える。</p> | <p>ご提案いただいたことをふまえながら、今後、読書活動の日常化を検討してまいります。</p> |
| 16 | 26 | 読書環境の整備・充実について | <p>ボランティアが質の高い活動にするために、ボランティアと学校の先生を繋ぐ、コーディネーターの配置を要望する。</p> | <p>ご意見をふまえ、図書館で実施している学校連携事業やボランティアスキルアップ講座等を通して、学校で活躍するボランティアの支援に努めてまいりたいと考えています。</p> |